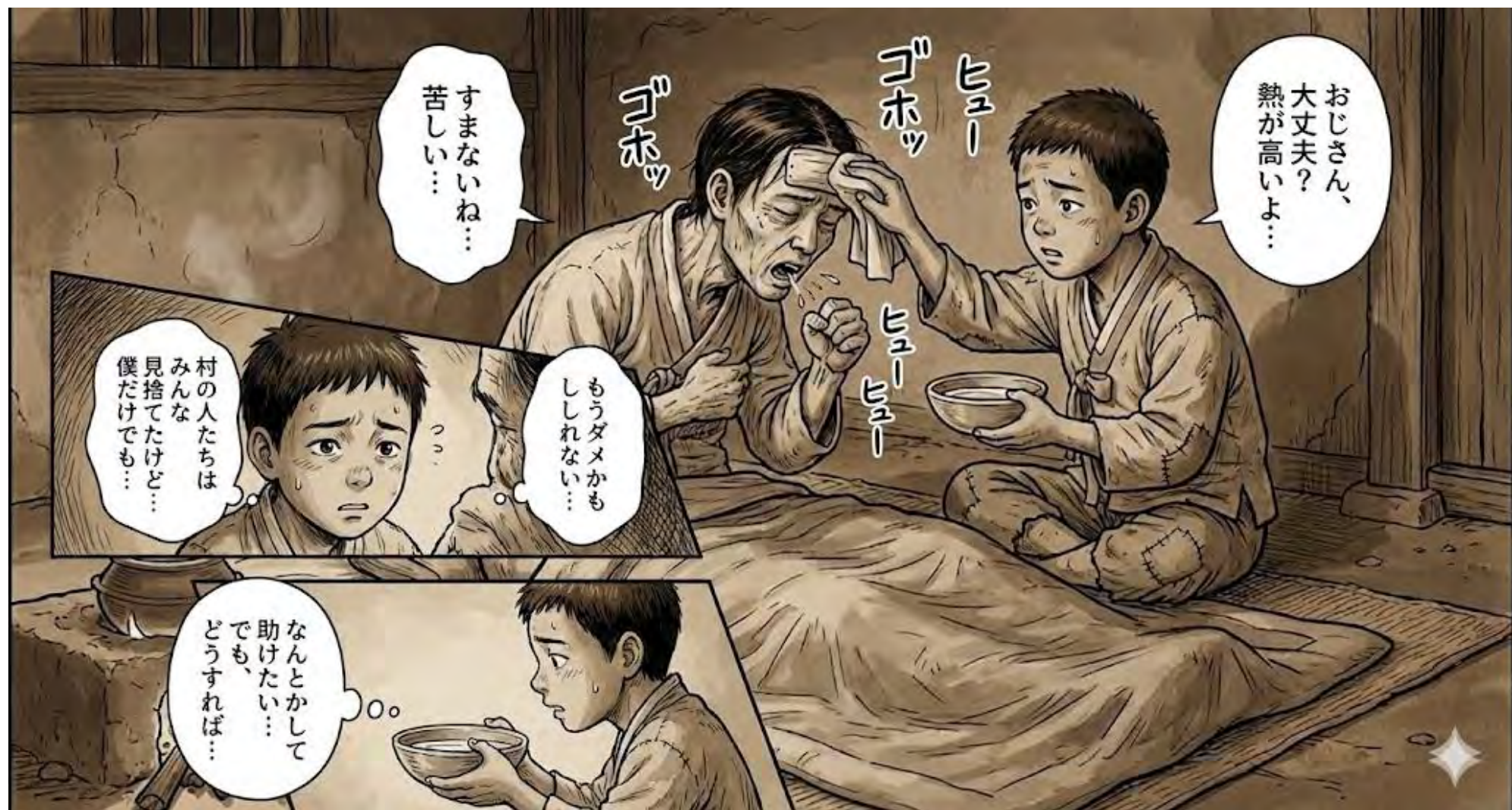


漫画
～リ・ソンホ物語～

長生ドラジ栽培法確立に至るストーリー



1930年に韓国の貧しい農村の小作農の家に生まれたり・ソンホ氏。
小学校にも通えず、農作業の手伝いや弟たちの面倒をみるといった日々に明け暮れていた。



そんな幼少期、同じ村に当時は不治の病といわれた結核で苦しむ大人がいた。村人たちは死の淵で苦しむかれを見捨てるよりほかなかった。



ある日、リ・ソンホ少年とその大人は山奥に薪を採りに行った。



山奥で二人は偶然に大きく育った桔梗の根をみつけた。
「長生きした桔梗は、山参（長生きした高麗人参）よりもカラダに良い」。
確かに言い伝えとして聞いたことはあるが、本当にこれが!?



半信半疑ながら、その大人は巨大に育った桔梗の根を食べた。
そして数週間後…。



村人たちから助かるまいと見捨てられていた彼が、見違えるほど体調を回復させたのである。



村人たちはその驚愕の出来事に騒然とし、あらためて「長生きした桔梗根」の伝説を語り合うのであった。



そして誰よりも深く衝撃を受け、この出来事を脳裏に刻み込んだのがリ・ソンホ少年であった。



時は過ぎ、1950年。韓国全土を揺るがす朝鮮戦争が勃発。
二十歳を迎えたり・ソンホ青年は、徴兵され戦地へ赴くことに。



そして1953年、朝鮮戦争休戦により、リ・ソンホ青年は無事に村へ帰還する。



小作農の息子として生まれたり・ソンホ青年は、幼少期の出来事が忘れられずにいた。
「長生きする桔梗を作ることができれば、世界中の人々を救うことができる」。



小作農の息子に生まれた自分は、どんなに農作業に精を注いでも、自分の畑ひとつすら持つことなく生涯を終える運命しかない。自分の人生に意味を持たせたい…。そのような強い志が心の底から湧き出てくる。



挑戦し、失敗に終わったとしても、自分がこの世に生を受けなかったことにすればよい。
このように長生ドラジ栽培探求を強く決意し、村を旅立つのであった。



まずは韓国中の良いといわれる土地を巡り歩き、桔梗を植えていった。
ある土地で3年、ほかの土地で3年…。立派に元気よく育っていた桔梗は3年もすると皆枯れてしまう。



わずかな財産も底をつき、山奥へと逃げるしかなくなった。
それでも桔梗の栽培研究は決してあきらめることはなかった。



リ・ソンホ氏が逃げた先は、韓国最高峰の智異山（チリ山）。
古来より霊峰霊山といわれたこの地は、山深く様々な植物が生い茂る大自然そのもの。
良質な自然生薬が豊富に採れることでも知られている地域である。



ケモノですら山奥で生活できるのであれば、知能を持った人間ならば十分に暮らせるはず。
あらためて心に強く決意し、長生ドラジの栽培研究に勤しむ日々が続く。



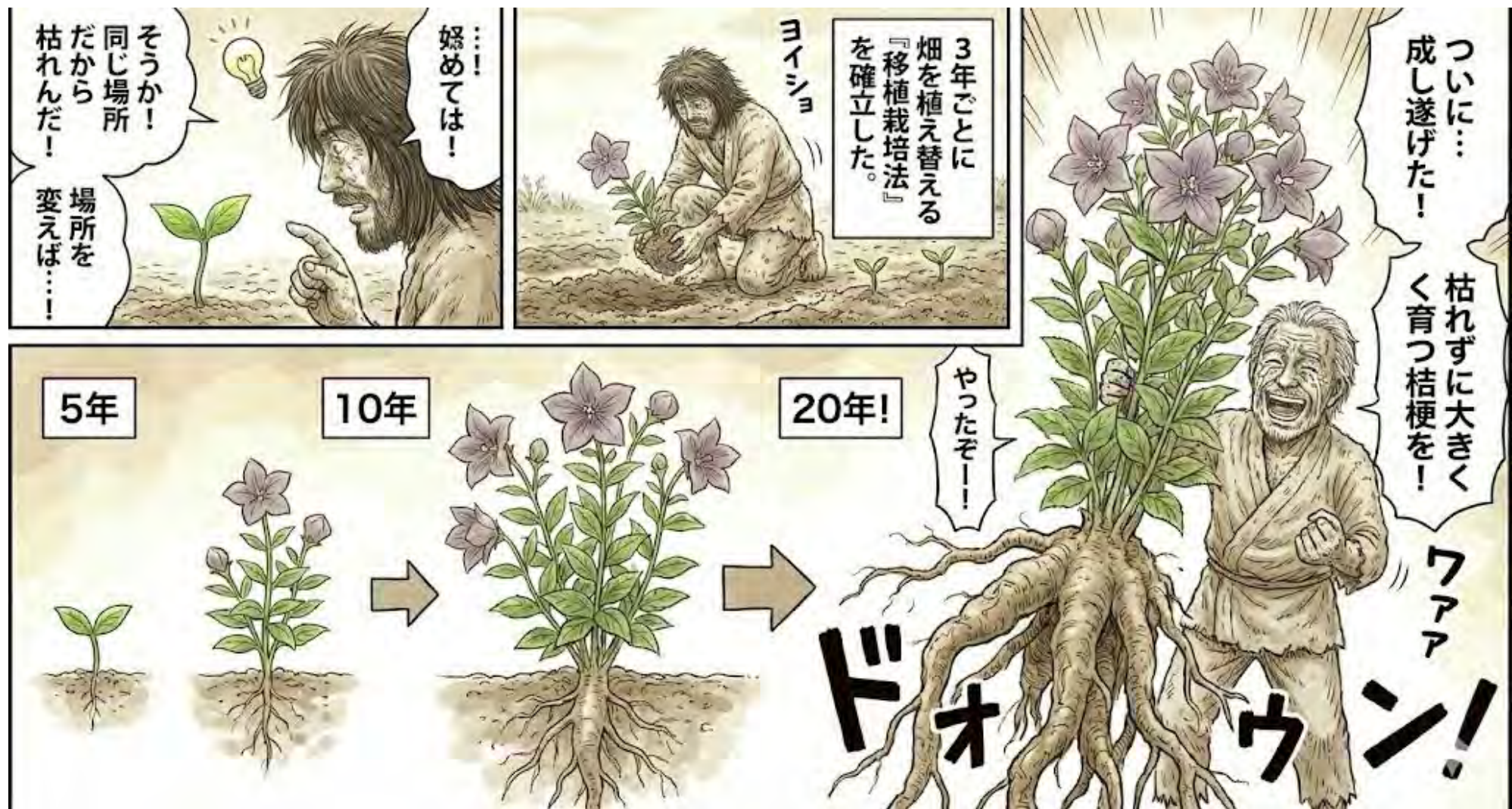
しかし山奥での生活は何十年にも及び、もはやいでたちも空腹をしのぐ術もケモノと同じという自分自身に、自嘲と絶望の念が毎晩襲いかかる…。



枯れたドラジを手に涙したことは数えきれない。
しかし失敗を恐れるほど守るものは元々持ち合わせていないと考えれば、再び勇気が湧いてくる。
壮絶な闘い、孤独な挑戦の日々は続いた。



ある時、弱々しいため畑の隅へ植え移しておいたドラジが4年目にも芽を出していることに気づく。
「植え替え」という手法が長生ドラジ栽培のカギであることが解った!!



そして5年、10年、20年と枯れずにドラジを育て上げる手法を確立した。



しかし幼少期、結核で苦しむあの大人と山奥でみつけた大きなドラジは一体何年間育ったドラジだったのか？
この結論が出せないまま、リ・ソンホ氏は山奥で病に倒れる。



薬も何もないなか、唯一あるのは毎年採れたドラジ根の焼酎漬けのガラス瓶だけであった。



気休めにドラヅ酒を飲もうとしたとき、根からアルコール抽出によって焼酎に染み出るエキスの色の濃さの違いに気づく。20年を超えた根のエキスは明らかに色が濃くなっている…。



それまでの体調不良がウソのように見事に回復した。長年に渡る執念が実を結んだ瞬間であった。
桔梗（ドラジ）は根の生育年数が20年を超えると、劇的に根に含まれる成分が変化する！
したがって長生ドラジは21年以上根と定義することになる。



そしてその後、焼酎に染み出るエキスの色だけでなく、実際に科学者らによる専門的な分析検証により、やはりドラジ（桔梗）根は20年を超えると、特殊な成分が数多く検出されることが判明。多くの研究機関、研究者らによって、専門的な学術研究が行われ、豊富な研究成果が発表された。



長生ドラジ（桔梗21年根）の科学的な検証を経て、山参を超えると語り継がれた根の栽培法が確立された。リ・ソンホ氏はその栄誉を称えられ、当時の金大中大統領から「石塔産業勲章」を受勲した。ひとりの人生を振り返れば、山奥での人間の底辺としての生活と、一国の国民としての最高栄誉という両方を経験した男は他に在るであろうか…。



2025年4月、リ・ソンホ氏は95歳でその壮絶な人生の幕を閉じた。
「為人長桔」人の為の長生桔梗。リ・ソンホ氏の遺した想いを我々は未来へと受け継いでおります。

以上、漫画リ・ソンホ物語でした。